

令和5年度焼津市文化振興計画 推進委員会 会議録		開催	日時 令和5年8月4日(金) 午後2時00分～2時57分
			場所 焼津市役所6階 会議室6A
次第	1 開会 2 部長挨拶 3 出席者紹介 4 会長、副会長の選出 5 会長挨拶 6 報告事項 焼津市文化振興計画アクションプログラム推進状況令和4年度実績報告 7 その他 8 閉会		
出席者 委員 5人 事務局 4人 その他 1人 合計 10人	二木秀幸委員、吉永律子委員、青木直子委員、川口円子委員、岩本ちさと委員 事務局(松永生きがい・交流部長、谷澤課長、石野係長、山田主査) 山本常務理事		
内容	1 開会 2 挨拶 3 出席者紹介 (嘉茂豊一委員、松田敏孝委員、高富美智子委員は欠席) 4 会長、副会長の選出 二木秀幸委員を会長に選出、全員同意し、承認 川口円子委員を副会長に選出、全員同意し、承認 5 会長挨拶 6 報告事項 (1)各種報告 事務局より資料「文化振興計画アクションプログラム実施状況報告書」に基づき説明 (2)各委員からの報告(情報交換) ○嘉茂豊一委員(一般社団法人焼津市観光協会) ※事前提出された意見書より 文化資源における観光的活用の推進取組として、観光協会が関わっている「や いづ観光案内人の会」では、「焼津の魅力聴いて見て納得」事業として、花沢、 浜通り、八雲の3コースを通年で市民、県民、観光客を対象に30回程、また、 「子供達に伝えよう、焼津の魅力を」として、浜通り、八雲コースを小学生や 高校生を対象に案内した。 次代を担う子供達に繋がる事業展開を今後もお願いしたい。 ○松田敏孝委員(焼津商工会議所) ※事前提出された意見書より 焼津文化会館、大井川文化会館、ディスカバリーパーク焼津をはじめ、公民 館や八雲記念館、歴史民俗資料館、ターントクルこども館まで、様々な場所で 多彩なイベント・講座が開催されており、驚いている。これだけのイベント・ 講座を開催、運営することは大変なご苦労だと思う。また、焼津市がこれだけ のことができる豊かなまちで、その住民であったことにも感謝の気持ちが湧 く。 過日、エコパアリーナでコンサートに参加する機会に恵まれた。その際、チ ケット購入から入場まですべてデジタルで完了した。あれだけの規模のコンサ ートになると、とてもアナログでは捌ききれないと感じた。焼津市においても、 これだけ多数のイベント・講座を開催されているので、入場チェックや入出金 などでデジタル化を進展させると、かなりの省力化が可能かと感じる。		

○吉永律子委員(公益財団法人焼津市振興公社)

歴史民俗資料館による子ども教室「親子で七夕かざりをつくろう！」など、文化の伝承は非常に重要なものである。私が子供だった頃、七夕の時期には必ず笹を準備し、短冊を作成して飾る習慣があったが、最近では七夕飾りを目にする機会が減るなど、年中行事(七草粥、小豆粥、節分など)を各家庭で行う習慣が失われつつある。文化の伝承は全国的にも大事だが、一部地域での特色行事(市内大富地区の豆を撒かない節分など)は、特に失われる危機に瀕しているため、文化に触れる教室等を通じ、地域文化の伝承に力を注いでいただきたい。

「基本事業5 文化にたずさわる人材の育成」について、焼津市文化連盟に所属する会員の高齢化をよく耳にする。現代の若い方々は、団体行動が苦手と思われるため、自ら進んで連盟に加盟する者は少ないと感じる。そのため、出前講座のように小中学校へ講師として出向き、文化芸術に少しでも関心を持っていただき、連盟へ加盟しやすい環境作りが大切ではないか。

○高富美智子委員(焼津市文化連盟) ※事前提出された意見書より

資料を拝見し、あらゆる角度から企画、事業に取り組みをされていることに感銘を受けた。

文化連盟としても、文化祭を初め、子供の文化芸術体験会、焼津おとな倶楽部(趣味活案内人による講座)など、企画を実施していただき感謝している。実施状況や要望、携わった講師の反省等を共有していただけると、今後に活かせるのではないかと感じる。会員の中から、とても良い企画なので年に数回開催していただきたい、との意見を受けた。

実際には大変難しい案件かもしれないが、焼津を中心とした各高等学校に働きかけ、高校生主体の事業または体験会などが開催できたら良い、と感じた。

○青木直子委員(焼津市音楽連盟)

この1年間、スマートフォンの活用について非常に重要性を感じた。どんな些細な情報であっても、スマートフォン1つで様々な情報を仕入れることが可能である。宿予約や観光施設への入場など、スマートフォンが欠かせない存在となっている。国もスマートフォンの活用を推し進めており、情報の発信には欠かせないものである。

旅行で越後村上鮭塩引き街道を訪れた際、新潟県村上市の伝統文化である「塩引き鮭」が各家の軒下に下げられている風景を見た。この街道について、市の支援もあって保たれていると聞く。また、同県塩沢町の駅前には素敵な商店街が立ち並んでいた。この街並みを保つためには、個人での維持管理は非常に困難であるため、市が中心となって動かなければ街並みが成り立たないのではないかと痛感した。焼津市内にある「浜通り服部家」という歴史的建造物では、ゲストハウスとして活用されており、この1軒だけでなく、2軒3軒と連なることで街全体が文化財になるのではないかと感じた。

人間は、四季に触れることで伝統や文化を感じ取ることができると思うため、四季を感じられるような世代が育ってくれれば嬉しい。

○川口円子副会長(焼津市文化財保護審議会)

青木委員も話したとおり、スマートフォンは欠かせない存在であるが、それらの普及に伴い、高齢者や障害者などの馴染めない方々が取り残されないような工夫が大切であると感じた。

歴史民俗資料館による令和3年度と令和4年度の事業数を比較すると、新型コロナウイルスが落ち着いたこともあり、事業数がかなり増え、伝統文化の継承の観点からして非常に頼もしい。

焼津神社大祭「荒祭」について、一区藤組、二区竹組、三区柳組、四区櫻組

の計4区の所属している方たちで運営を行っていたが、祭典委員が不足していることを理由として、今年初めて市内中学校及び高等学校へチラシを配り、委員を募集した。「藤守の田遊び」についても、藤守に住む地域の方々だけの運営は困難となってきているため、大井川中学校にも協力を依頼している。このように近隣の高等学校や大学も巻き込んで、地域の伝統文化を支えていければ良いと思う。

焼津市内には「浜通り服部家」だけでなく、「藤守の田遊び伝承館」や「花沢地区ビジターセンター」など、拠点となるような箇所が整備されているため、可能であれば歴史関係だけではなく、様々なイベントにて使用し、様々な方へ周知していただきたい。

○岩本ちさと委員(焼津市校長会)

焼津市では、令和5年度から全中学校区において、地域と学校が力を合わせて子供達を育てていく取り組みとして、「コミュニティ・スクール」がスタートした。今年は初年度であるため、実際に何をするか話し合いを通じて検討予定であるが、子供達に地域や社会に触れて欲しいため、学校へ講師を招き講座を開催したり、子供達が地域へ出向いたりすることも大事であると思う。全国学力学習状況調査において、「地域の行事に参加していますか？」との調査項目があるが、焼津市はそれほど高くない。「コミュニティ・スクール」がスタートしたことで、地域行事への参加も増加し、文化に触れる機会が多くなるのではないかと考える。

市内には、子供を対象とした体験型の講座やボランティアが多数ある。このような講座に、1人でも良いので参加しよう、と思ってくれるような子に育てていきたい。そのためには、地域で何をやっているのか、大人たちがどのようなことに熱を込めて一生懸命やっているのか、触れることが重要であると考えている。

7 その他

(1) 会議録について

本日の会議録については事務局にて作成後、正副会長に確認をしていただいたうえ、市ホームページにて公開を予定。

(2) 今後の予定について

来年度はアクションプログラムの見直しをする予定。

8 閉会

作成年月日 令和5年8月5日

作成者 文化振興課 市民文化担当 山田